



[令和6年5月8日 定例会発表要旨]

手稲に関わる和田家のルーツ

元北海道議会議員 和田 敬友

和田家は福井県丹生郡萩野村字笹川から明治20(1887)年に曾祖父の和田藤根吉が北海道に渡り、当時の札幌郡大字琴似村小別沢、現在の小別沢50番地2に入植しました。

炭焼をして現金収入を得る為に山奥の小別沢に入植したようです。

その後、藤根吉の兄である梅吉が福井県より移住したことを機に小別沢の住居を譲り現在の福井4丁目に移転し、明治の終わりには現在の西野4条5丁目に土地を求め現在に至ります。



西野・福井・平和地域は琴似発寒川の支川上で、水田を中心とした農家が多くありました。

当時は用水路を利用した水車が100基ほど各農家に設置され、動力の一部として使用しておりました。その後、市の中心部に近いこともあり新鮮な野菜などが喜ばれたこともあり、水田から畑作または果樹園などに転作をされ、作物は現在の北1条西24丁目の朝市に出荷され皆さん喜んで利用され現金収入の1番でした。

都市化の波がだんだん押し寄せる中、西野も大きく変貌し昭和42(1967)年の手稲町と札幌市の合併によりインフラ整備も大きく変わり、その年の統一地方選挙では手稲町の代表として手稲本町からは手稲議会議長の乙黒定七さん、手稲東西野地域からは副議長の佐々木繁さんが立候補し当選を果たしました。

その頃の議員選挙は地域の代表または部落代表の慣があり、私の祖父政吉も大正13(1924)年・15(1926)年、昭和3(1928)年の選挙で当選を果たし3期8年村議会議員として勤めました。

父の勝之は昭和46(1971)年に佐々木繁氏の後継として市議会議員に立候補して当選を果たし、その後昭和47(1972)年に札幌市も区制が引かれ、全市が7区に分かれての選挙となり、市議会議員から西区の道議会議員として立起することとなりました。立起に当たっては昭和42(1967)年合併に伴った統一地方選で当時の蓑輪早三郎さんが、道議選に石狩管内選挙区で立候補しましたが苦杯をなめる結果となり、また手稲町と合併協議会の委員長であった琴似の宮坂作雄市議も昭和46(1971)年の道議選に立候補しましたが同じく苦杯をなめる結果となり、昭和50(1975)年の統一地方選において蓑輪、宮坂両氏が果たせなかった道議会議員擁立の為に両氏から尽力を頂き、勝之の連合後援会長として蓑輪氏に指揮をとって頂き見事当選を果たし、以来昭和54(1979)年、58(1983)年連続当選を果たしましたが昭和60(1985)年2月18日に志半ばにして急逝しました。

その後、私が父の志を継ぎ9期36年道議会議員として勤めさせて頂きました。その間、宮坂作雄扇氏の葬儀委員長には勝之自ら行い、蓑輪早三郎扇氏の葬儀には私がお手伝いさせて頂きました。

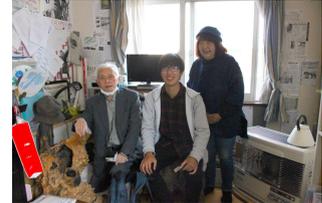
現在は長男敬太が西区の道議会議員として、次男勝也が手稲区の市議会議員として西区、手稲区の発展に尽力しております。

和田家が、永期に亘り政治への関わりを持つことができるのは皆様のおかげと深く感謝申し上げます。



★脚本家・映画監督の方から取材を受けました

5月4日、脚本家・映画監督の武田恒監督が手稲郷土史研究会への取材に訪れました。「ていね山映画祭」原案コンペを知り、手稲をテーマにした短編映画の脚本制作のため東京から初めて手稲に訪れたという武田監督。手稲の歴史とまちの魅力、映画製作についてお話をしました。



★「さっぽろ10区めぐり～手稲区編～」にて講師依頼を受けました

札幌生涯学習センター様から依頼を受け、5月28日、6月4日、6月11日の3日間、さっぽろ市民カレッジ「さっぽろ10区めぐり～手稲区編～」にて当研究会の茂内義雄顧問、林俊一事務局長、岡和田夢子会員が講演しました。さっぽろ10区めぐりは毎年札幌市各区の歴史について講演、散策を通じて学ぶ企画で、今回最後に取り上げることとなったのが手稲区でした。5月28日は手稲区民センター3階視聴覚室にて茂内顧問が手稲の歴史と北日本飛行学校、JR手稲駅北口周辺の歴史について講演されました。講演後は参加者の皆様と手稲駅北口周辺を散策しました。6月4日は手稲神社にて手稲神社・山口貴生宮司が手稲神社と手稲の歴史について講演され、岡和田会員が茂内顧問、菊池博行会員の協力のもと海軍大佐・宮崎定栄、分区と手稲区誕生、前田農場、手稲本町商店街について講演しました。大正天皇に縁ある御便殿の屋根が使用された神輿殿も見学しました。6月11日は手稲コミュニティーセンターにて北海道文化財保護協会副理事長・田山修三氏が前田農場、バッタ塚について講演され、林事務局長が手稲鉾山について講演されました。



★会費納入のお願い

令和6年度の会費について、6月定例会での納入が難しい方は「北洋銀行 手稲中央支店(普) 4048389 手稲郷土史研究会 会長 沖田紘昭」あて 3,000 円をお振り込み願います。手数料は各自ご負担ください。



一ノ宮博昭相談役が先月お亡くなりになりました。手稲郷土史研究会創設の礎を築き、長年研究会の相談役としても貢献いただきました。手稲山義経埋蔵金伝説など手稲に縁ある様々なお話を語ってくださいました。心よりご冥福をお祈り致します。

次回定例会 ⇒ 発表内容「駅伝、小樽の三ツ馬を走る」立花顕次(手稲郷土史研究会 会員)

「美瑛に育った歴史家 野村武雄先生」茂内義雄(手稲郷土史研究会 会員)

7月10日(水)18:15～ / 手稲区民センター 3階 視聴覚室 ※会員以外の方のご参加は事前の申し込みが必要です。

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第194号 令和6年6月12日発行 発行責任者:沖田紘昭(手稲郷土史研究会 会長) 編集:岡和田夢子
❖〒006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会 ❖TEL 090-3381-4994 ❖FAX 011-682-9874
❖メールアドレス teinekyoudoshi@gmail.com <担当 岡和田>